

群青の風

題字／岐阜医療科学大学 学長 山岡一清様

第23号

令和5年12月28日

発行

岐阜医療科学大学 同窓会

創立50周年記念式典を終えて

会長 畦元 将吾



岐阜医療科学大学創立50周年記念式典を終え、皆様にご感謝の気持ちで一杯です。今回の記念式典は、私たちの歴史と成果を称える場であると同時に、これからの50年に向けて新たな目標を設定する機会となりました。同窓生の皆様には、これからも大学を支え、指導し、若い世代に知識と経験を共有していただきたいと思っています。

同窓生同士の交流も大切です。式典の間、多くの交流の場が設けられ、古い友人と新しいつながりを築く機会が提供され

ました。これらの瞬間は、私たちの大学のコミュニティを一層強化しました。これからの50年に向けて希望に満ちた一歩を踏み出すことができ、大学と同窓生の皆様との連帯感は、未来への自信と期待を高めています。今後も、岐阜医療科学大学の発展と同窓生の皆様との結びつきを強化し、共に未来を築いていけることを楽しみにしていきます。



岐阜医療科学大学創立50周年記念式典

令和5年9月24日(日)、岐阜グランドホテルにおいて岐阜医療科学大学創立50周年式典が盛大に行われました。多くの卒業生が岐阜医療科学大学同窓会として駆けつけ、厳粛な中にも温かな雰囲気となりました。岐阜医療科学同窓会としては、畦元将吾会長による祝辞が披露され、岐阜医療科学大学の創立50周年を祝福しました。その後、山岡一清学長より日頃の感謝を込めて岐阜医療科学大学同窓会へ感謝状が贈呈され、畦元将吾会長が代表として喜んで受け取りました。



学長式辞



畦元同窓会長による来賓祝辞



母校より同窓会へ感謝状贈呈



南クイーンズランド大学・岐阜医療科学大学連携覚書調印式

今回の式典では、本学の教育目標のひとつである「国際性」具現化のひとつとして、オーストラリア南クイーンズランド大学University of Southern Queensland (Uni SQ) と連携覚書調印式を執り行いました。南クイーンズランド大学は1967年に創立、オーストラリア・クイーンズランド州南東トゥーンバに位置し、学生数約25,000人の公立総合大学です。大学及び大学院を合わせて120か国以上から留学生を7,400人受け入れており、オンライン教育にも力を入れています。この度の連携覚書調印に伴い、今後も留学生の派遣等を継続的に実施し、教育・研究活動における共同での取り組みや連携強化等を行っていくことを確認しました。

創立50周年記念講演会

「医療における AI の現状」

池谷 裕二先生

記念講演会では東京大学大学院薬学系研究科教授の池谷裕二先生が、「医療における AI の現状」と題して講演されました。講演では、現在の AI のディープラーニングについて分かりやすく説明されました。ディープラーニングは画像処理が得意であり、目の役割を持った人工知能であると説明されました。医療分野に関しては、今では、多くの企業が診断や薬の創薬等の医療用 AI を開発しています。それも、医薬品メーカー以外の異業種の企業も開発に参加していることを知りました。AI を活用した治療や創薬への可能性を期待できる非常に興味深い講演でした。



記念祝賀会の様子

記念祝賀会では、会場は華やかに飾られ、笑顔があふれていました。祝賀会の初めに理事長奥様が登壇され、大学の成長と発展に尽力してくださった教職員や関係者に感謝の意を表しました。そのほかに同窓会会長、岐阜大学学長、岐阜薬科大学学長、私立大学協会常務理事、岐阜県病院協会名誉会長などの方々から祝辞をいただきました。

続いて、バンドがステージに登場し、迫力の生演奏が会場を包み込みました。バンドの演奏は祝賀会に一層の活気を与えました。その後、卒業生たちによる学歌の披露が行われました。美しい旋律と歌詞が、大学の歴史と使命を称賛し、大学の歩みと未来への希望を共有する貴重な時間となりました。



小野木記念事業
実行委員長



卒業生による学歌斉唱



司会 石田純一様



祝賀会バンド生演奏

創立50周年記念式典・記念祝賀会に参加して

短大 衛生技術学科 18期生 南 武志

2023年9月24日に開催された母校創立50周年記念式典および記念祝賀会に参加しました。記念式典では行政関係者や医療関係者をはじめ、同窓会会員も多く参加されていました。M科関連では、元学科長の蟹江匡先生や、安部彰先生もお見えになっていました。お二人ともお元気でした。

大学 看護学科 3期生 若林愛弥

母校の50年の歴史を祝う特別な場で、学生時代にご指導くださった先生方に感謝の気持ちを伝える機会を持つことができ大変光栄でした。先生方は当時と変わらないお姿で、温かい言葉をかけてくださいました。大学での学びと経験がいかに貴重であったかを再確認するとともに、今後も母校の更なる発展を期待したいと思います。

岐阜医療科学大学の歴史

1973年4月	国際医学総合技術学院	臨床検査技師科	開設
1974年4月	国際医学総合技術学院	診療放射線技師科	開設
1983年4月	岐阜医療技術短期大学	衛生技術学科・診療放射線技術学科	開学
1985年3月	国際医学総合技術学院	閉校	
1991年4月	岐阜医療技術短期大学	看護学科	開設
1999年4月	岐阜医療技術短期大学	専攻科	開設(地域看護学専攻・助産学専攻)
2006年4月	岐阜医療科学大学	保健科学部・衛生技術学科・放射線技術学科・看護学科	開学
2009年3月	岐阜医療技術短期大学	助産学専攻科	開設
2009年4月	岐阜医療科学大学	保健科学部衛生技術学科を臨床検査学科に名称変更	
2012年4月	岐阜医療科学大学	大学院保健医療学研究科	開設
2016年4月	岐阜医療科学大学	看護学部看護学科	開設
2018年4月	岐阜医療科学大学	看護学部看護学科	開設
2019年4月	岐阜医療科学大学	可児キャンパス	設置
2020年4月	岐阜医療科学大学	薬学部薬学科	開設
2023年	岐阜医療科学大学	創立50周年	

50周年記念石碑

関・可児両キャンパスでは母校の設立50周年を記念した「心願成就」のモニュメントが設置された。母校を彩る石碑は、学生たちの努力や日々の生活を見守る新たなシンボルとなる。



可児キャンパス



また、可児キャンパス学生駐車場から学校までの遊歩道のネーミングを公募、投票の結果、「かなえる小径」が選ばれ、学生有志によって看板の作成・設置がなされた。それぞれの思い、目標を叶える道、との熱い思いが込められている。



同窓会を開催しました

国際医学総合技術学院 診療放射線技師科4回生

今回、母校が創立50周年を迎え、記念式典、記念講演並びに記念祝賀会が予定され、この慶事を記念して地元関市で国際医学総合技術学院 診療放射線技師科4回生の同窓会を開催しました。

定年も過ぎ良い機会ということで、恩師をお迎えし19名の参加をいただき楽しい一日を過ごすことが出来ました。

親睦会の前に放射線技術学科棟(3号館)の施設見学を行い、久しぶりの母校との対面、当時の様子とあまりにも様変わりした校舎を拝見し懐かしさで当時を思い出しておりました。

只、旧R1号館は、いまだに健在で、当時の名残がありました。また、学校の先生から、皆さんが在籍した当時は臨床検査技師科と診療放射線技師科の2学科だけでしたが、現在は看護学科、助産学専攻科および薬学科、さらには大学院(修士課程)を開設し、可児キャンパスまで設置され、発展の一

途を辿っているとの説明を聞き、我々見学者一同驚きと喜びを感じて見学を終えました。

会うのは卒業以来の人もいましたが、学生時代と変わらず楽しい時間を過ごすことが出来、親睦会の話題は何といても健康の話が多かった様に思いました。ビデオで学校の紹介やクイズ等があり久しぶりに会った同級生と時間を忘れて楽しめました。

人生100年まだまだ健康で過ごし、また会える日が来ることを願ってお開きとなりました。



岐阜医療助産学専攻のつどい 集まれい! 熱いmid wife!!~同窓生のつながりが世界を変える♪~

「岐阜医療助産学専攻のつどい 集まれい! 熱いmid wife!! ~同窓生のつながりが世界を変える♪~」を2023年3月19日(日)に岐阜医療短期大学と、岐阜医療科学大学の助産学専攻科の学生との合同同窓会を開催しました。助産師1年生から助産師20年と幅広い世代が参加しました。恩師である唐沢先生から「将来の助産師」について講義をしていただきました。昔と変わらず、的確で歯切れのよい講義に懐かしさと、心地よさを感じました。

参加者の満足度も高く、モチベーションが上がった! 定期的に開催してほしい! との意見も多くありました。初めての試みでしたが、充実した1日になり、改めて縦横の繋がりが助産師にとって必要不可欠なことであると感じました。



同窓会を開催しました

国際医学総合技術学院 M科4回生4組 クラス会

学院を卒業してから実に45年ぶりで初めてという、ギネスブックにも載りそうなクラス会をR5年10月28日に名古屋マリオットアソシアホテルにて開催しました。東海地区11名、北陸地区3名、関西地区3名、九州地区3名の計20名が集まってくれました。既に亡くなっている者が4名、本人や家族の病気で来られない者が5名そして全く連絡が取れない者が数名と時の流れを痛感し、もう少し早く開催出来れば違ったクラス会になったのではと残念でなりません。

久しぶりに再会した旧友。さすがにみんな容姿は変わっていましたが、声は昔のままで、眼を閉じて話を聞くと当時の情景が浮かんで来ました。あちらこちらで盛り上がっていましたが、一次会、二次会だけではとても時間が足りませんでした。翌朝、名古屋駅に集合してレンタルしたマイクロバスで学校へ向かいました。当日は大学祭が開催されており、昔を懐かしく思い出した人もいましたが校舎等は建て替えられて昔の面影は何一つ残っていなかったのが残念でした。

その後、関市内(セキテラス：旧刃物会館)を周り、犬山で昼食を取り夕方に名古屋駅からそれぞれ家路につきました。45年ぶりのおそらく最初で最後であろうクラス会、集ってくれた全員が参加して良かったと思ってくれる事を幹事としては願うばかりです。

尚、クラス会には恩師の三宅先生にも出席して頂きました。先生は83歳になられ週2~3回のジム通い、家庭菜園での野菜作りととてもお元気だった事を先輩、同級生そして後輩の皆さんにお伝えしておきます。



令和4年度 卒業記念品

毎年、その年に卒業した皆さんから、母校に彼らの思い出を卒業記念品という形で残していただいております。昨年度は、関キャンパスの学生食堂に隣接したテラスに3脚のバラソルを設けました。今までは、関・可児両キャンパスに卒業記念品を謹呈されていましたが、今回からは隔年で設けることになりました。

次年度(令和5年度卒業生)は、可児キャンパスに青春の足跡を残すことになります。



同窓会子女の皆様 入学準備金10万円を給付します。

目的：同窓会正会員の子女の入学に関する経済的負担を低減
同窓会会員子女の本学への就学支援

- 給付要件：(1)本学同窓会正会員の子女であること。
(2)本学が設置する大学院・学部・専攻科に新たに入学する子女であること。
(3)本学同窓会正会員、又はその配偶者が当該子女を扶養していること。
(4)給付回数は子女1名につき一度までとする。

準備金の額：採用者1名につき10万円

ただし、採用者が6名以上の場合は、減額して支給

お問い合わせ先：obog-info@u-gifu-ms.ac.jp

同窓会会員名簿情報について のお知らせ

現在、同窓会会員名簿の電子化に向けて準備しております。準備が整い次第、各会員様宛に個人のPW・IDを郵送にて案内させていただきます。案内が届きましたら各自ご確認にご協力ください。何卒宜しくお願い致します。

編集後記

節目の50周年を迎え、本学と共に感動的な記念式典を開催することができました。

アフターコロナ時代に向けて、皆様による積極的な同窓会の計画と実施を心から希望しています。

この会報では、既に3件の同窓会開催報告を掲載することができ、大変嬉しく思います。

今後も皆様の継続的な支援と参加をお願い申し上げます。

(杉浦)